

## 25. 「視覚障害者スマートフォンサポーター講習会」の実施状況報告

自立支援局 第一自立訓練部 視覚機能訓練課 荒木俊晴 鈴木稜平 高橋文孝 小坂瑞穂  
沢目明日香 田淵俊樹 関口弘一 小原有賀 内山実咲 一居伸幸 高平千世 鈴木愛子

### 【はじめに】

「地域支援の充実」に向けて、令和3年11月からボランティアや支援者等を対象に「視覚障害者スマートフォンサポーター講習会」を実施してきた。本発表では、講習会の取り組み状況及び今後の展望について報告する。

### 【実施内容・結果】

- 1 実施回数：8回（対面：7回、オンライン：1回）（令和3年11月～令和5年10月20日）
- 2 受講人数：70名（支援機関（同行援護・ヘルパー事業所等）：18名、学生：16名、当事者：15名、ボランティア：14名、社会福祉協議会・市役所：5名、医療関係者：2名）
- 3 実施方法・結果

#### (1) 社会福祉協議会・市役所に対して実施

- ①方法：地域の視覚障害者の人数や状況、並びに支援体制等を確認したうえで、社会福祉協議会・市役所に働きかけを行い、ボランティア等を対象に実施。
- ②結果：視覚障害者やサポーターの状況や数を社会福祉協議会・市役所が把握し、地域の実情に合わせた支援体制の構築が可能となった。

#### (2) 同行援護・ヘルパー・相談支援事業所に対して実施

- ①方法：サービス事業所に講習会の提案を行い、関係職員を対象に実施。
- ②結果：日常的に関わりのある支援者を中心としたサポート体制作りを行った。また、受講者が伝達講習を行うことで、事業所内でのサポーター育成が可能となった。

#### (3) 学生に対して実施

- ①方法：教育機関を通じ、授業の一環として学生を対象に実施。実際に視覚障害者との関わる場を設けるため、2部構成（1回目：事前学習、2回目：操作方法の伝達）で実施。
- ②結果：日常的にスマートフォンを使用しているため、操作の習得が早かった。また、実際に視覚障害者と関わる機会を設けることで障害理解につながり、今後のボランティア活動等に発展する可能性があることを実感した。

### 【今後に向けて】

これまで社会福祉協議会・市役所を中心とした展開を念頭に置いて近隣市町村へのPR活動を行ってきたが、取り組みの中で様々な可能性が見えてきた。社会福祉協議会・市役所を主体とする支援構築は有効的である一方、協力を得られる地域に差があることが課題とされたため、より多くの地域・機関に展開できるよう埼玉県、東京都、神奈川県を対象に9月から「出前講座」を開始し、当センターのホームページ、SNS等で情報発信している。その結果、受講申し込みは10月20日時点で12件となり、医療機関（眼科医師、看護師、視能訓練士）や同行援護・ヘルパー事業所の申し込みが目立つなど、視覚障害者に身近な支援者のニーズが確認されている。今後も地域で活躍する人材を育成するとともに、全国展開に向けた取り組みについても検討していく。